

2017ひろしまフラワーフェスティバル(5月3日～5日)

民族衣裳まとい、「朝鮮通信使」パレード華やかに

～日韓の友好親善・平和を願い、広ユ協も参加～



2017ひろしまフラワーフェスティバルの初日に行われた「花の総合パレード」に、広島ユネスコ協会は駐広島大韓民国総領事館と共催して「朝鮮通信使の再現行列」に出場しました。そして今年秋にも決まる朝鮮通信使の世界遺産化登録を強くアピールするとともに、日韓の友好と親善を沿道の市民に呼びかけました。

パレードの行列は、対馬藩主、藩士、旗手、楽人、従者（国書輿）、正使、護衛官、軍官、羅将、広島藩主、藩士などから成り、総勢91人が往時の色とりどりの軍服、民族衣裳を身にまとってのパレーとなりました。広ユ協からは18人が加わり、行進を盛り上げました。参加は昨年が続いて2回目となりました。

衣装の貸し出しや着付けなど、全面的にご支援くださった呉市下蒲刈町の蘭島文化振興財団、朝鮮通信使保存会の皆様、そして企画・リード役を果たされた総領事館の方々、大変にお疲れ様でした。ありがとうございました。







いやー、本当に楽しかったですね。皆さんお疲れ様でした。

朝鮮通信使とは

中世、朝鮮（今の韓国）と日本との間には活発な交流があり、朝鮮から室町幕府へ使節が訪れていました。しかし豊臣秀吉の時代に入った1592年に朝鮮出兵となり、1598年までに両国に多大な被害をもたらしました。これを機に交流は断絶となったのです。

時を経て江戸・徳川時代になると、徳川家と朝鮮との間に新たな友好関係の機運が高まり、1607年から朝鮮王朝から徳川幕府に対し、通信使（外交使節団）の派遣が再開されました。その後、1811年までに計12回行われました。

経路は、ソウル→日本・九州、瀬戸内海、水路で京都、陸路で江戸（今の東京）までのコースで、ほぼ半年かけて往来しました。使節団員は300～500人規模で、各地で温かな交流を深め、朝鮮王国の文化、生活、建築、教育、経済などの各分野でたくさんの知識と情報が伝えられました。

昨年3月、両国を結ぶ友好親善・平和創出へ意義ある歴史的遺産として、朝鮮通信使の関連資料を世界記憶遺産に登録するよう、日韓の民間団体がユネスコに共同申請しました。今年秋にも登録の可否が決まる予定です。